

2017年1月4日

日本ユニシスグループ 平岡 昭良、社長年頭所感

2017年の年頭にあたり日本ユニシス社長 平岡 昭良は、以下の年頭所感を発表しました。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
昨年中は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

2016年は、企業のIT投資が堅調に回復するとともに、従来の基幹系システムへの投資から、お客さまとの接点強化などフロント業務にIoT・AI・ロボティクスなどの新しいテクノロジーを活用する投資へと、IT投資分野のシフトが進んだ一年だったと感じています。一方、テクノロジーの進化や法規制の緩和により、全ての業種・業態の企業で、業界の壁や秩序が崩壊される「破壊的イノベーション」が進み、自社だけでは対応できない分野に「オープンイノベーション」の技術を取り入れることが当たり前になってきています。

日本ユニシスグループは、2015年度から3カ年の中期経営計画「Innovative Challenge Plan」の中で、「ビジネスをつなぎ、サービスを動かす。ICTを刺激し、未来をつくり出そう。」のビジョンを掲げ、お客さまと一緒にイノベーションを起こし「ビジネスエコシステム」を創造する取り組みを進めてきました。2年目になり、徐々に成果も現れています。

デジタルイノベーション分野では、国際ブランドプリペイドカード、チャージポイントサービス、電子マネーなどを含めたキャッシュレス社会に向けたサービスプラットフォームが整い、今後増えることが予想される訪日外国人対応などで、さらに進化・増殖していくことが期待されます。フロント業務においても、タブレットソリューションやフロントシステム開発基盤など、さまざまなサービスプラットフォームの提供が始まりました。

ライフイノベーション分野では、エネルギーマネジメント/電力システム改革・少子高齢化・労働力不足などの社会課題を解決するための、多くのサービスプラットフォームを創出しています。

これらのサービスプラットフォームは、日本ユニシスグループが創り上げる「ビジネスエコシステム」の中核となります。日本ユニシスグループは、「ビジネスエコシステム」の成長を促す「カタリスト（触媒）」としての役割を担い、このサービスプラットフォームの延長線上でビジネスを派生させていきたいと考えています。

日本ユニシスグループは、今年も引き続き、社会課題を解決するための「ビジネスエコシステム」を創造・拡大し、グループ全社員が一丸となって活力ある未来づくりに全力で邁進します。

以上

■関連URL：

日本ユニシスグループ 中期経営計画「Innovative Challenge Plan」を発表
http://www.unisys.co.jp/news/pdf/nr_141201_innovative_challenge_plan.pdf

社会課題を解決するビジネスエコシステム
<https://businessecosystem.unisys.co.jp/>

※記載の会社名、商品名およびシステム名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。